

2018年12月20日に半日研修でお邪魔いたしました。まずはうりずんでのクリスマス会の見学をさせていただきましたが、(プロの)サンタクロースの登場に喜ぶ子どもたちの様子がとてもかわいらしくて自然と笑顔になりました。以前見学に伺ったときに一緒に過ごしたお子さんが私のことを覚えてくれていて、笑顔で会いに来てくれたこともとてもうれしく思いました。

うりずんの見学の後、高橋先生の往診についていかせていただきました。子どもだけでなく、高齢者の方のご自宅への訪問診療もあり、それぞれのご家庭のちがいも感じました。普段、病院の外来や病棟で、(特に具合が悪くなった)患者さんをお迎えする形で診療をしているので、患者さんやご家族の世界へこちらがお邪魔する、というスタイルはとても不思議な感じがします。挨拶一つをとっても、あちらの世界観を考えて行動する方がいいのかな、といつも難しいな…と感じます。患者さんがベッドの上であっても身支度を整えて、背筋を伸ばしてお話しされる様子を見て、こちらも身の引き締まる思いがしました。普段の診療からもお互いに礼節のある態度でお会いすべきなのだな、と改めて思いました。

こどもの患者さんがいらっしゃるご家庭への訪問は、いままで体験したことがなく、新鮮でした。普通のご家庭の景色のなかに、吸引チューブやSpO2モニターがかわいらしい袋に入れて溶け込んでいました。おうちのなかもとても明るく、兄弟のお子さんも元気でここにこして、病院の外、患者さんやご家族の世界ってこんな感じなのだな…と思いながら見ていました。私自身は今後NICUやPICUに携わりたいと考えているので、病院を卒業した子どもたちがおうちでどんな風に過ごすのか、お母さんや兄弟たちはどんな様子なのか、ぜひお邪魔してみたいと思っていましたが、想像以上に温かいおうちで、お母さんはじめご家族の皆さんの努力がたくさんあるのだろうな、と感じました。ご家族のなかで足りないところを医療や福祉が補う、というより、医療や福祉の手が、いつでもすぐ届くところにある状態を準備しておくことが大切なのかなとも思いました。

私自身は学生時代から小児科専攻を希望しており、学生の間にも何度か市町村の支援学級や福祉施設を見学させていただく機会をいただくことがあったのですが、伺うたびに、自分自身もただ与えられるばかりでなく、自分の成長や進路の選択に生かすべく、勉強したいことや見たいものを考えながら研修に参加することができるようになったように思います。特に訪問診療の「患者さんの世界にお邪魔する」特殊さは何度体験してもとても興味深く、患者さんがどんな雰囲気話したいと思っているのか、どんな話をどれくらい詳しくしたがつているか、など、それぞれの患者さん・ご家庭でまったく変わってところが訪問診療の奥深さなのかな、と思いました。

今回の研修の経験を今後の診療に生かしていければと思います。この度は大変貴重な機会をくださりまして誠にありがとうございました。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。